

体験レポート

1年間の留学によって外国語運用能力と異文化理解を高めるスタディ・アブロード・プログラム。
どのような学び、暮らしを体験したのか、プログラムに参加した学生に留学生活の様子を語ってもらいました。

2019年度 留学

ディスカッション型の授業を通じて
自分自身の考えをもつようになりました。

ニュージーランド / オークランド大学

互いの意見を尊重する文化のなかで、
物事をしっかりと調べ、考え、自分の意見を
発信するようになりました。



4年次生
吉田 野亜さん
静岡 / 日本大学三島高校出身

留学先のオークランド大学では、講義型の授業とは別に、ディスカッション形式の「チュートリアル」という授業が行われています。チュートリアルでは少人数の参加学生が幅広いテーマについて活発に意見を交わします。例えば歴史をテーマに取り上げた回では、先住民マオリなどについて話し合いました。多民族国家であるニュージーランドには、互いの意見を尊重する文化が根付いています。だからこそ容易に相手に同意することよりも、自分自身の考えをもち、伝えることが求められていると実感し、自らの意見を積極的に発信するようになりました。また、そのために事前にしっかりと調べ、考える習慣も身に付いたと思います。ホームステイや寮での共同生活も、自分のアイデンティティを見つめ直す貴重なきっかけに。今後は英語運用能力を生かして、日本の魅力を海外に発信する人をめざします。

留学中の思い出



同じ授業を受けていたクラスメイトです。さまざまな国から来た同世代と話し合っ、刺激をたくさんもらいました。



ミルキーブルーの湖、プカキ湖からマウントクックを見たときの写真です。不思議な湖の色と正面にそびえたつマウントクックの壮大さにとても興奮しました。

中国語を学んで使う毎日が
会話の表現力を高めてくれました。

中国 / 北京外国語大学

ボランティアに参加したことが
きっかけとなり、積極的に中国語を
使って話しかけるようになりました。



4年次生
山下 楠美子さん
埼玉 / 県立伊奈学園総合高校出身

授業では、必修科目で中国語の文法やリスニング、作文などを学ぶとともに、選択科目で書道や映画などの中国文化を学んだり、中国の若者が日常生活でよく使う言葉を学んだりしました。多国籍クラスだったので、中国だけでなくさまざまな国の考え方を知る良い機会になりました。また、大学では留学生ボランティアを募っていたので、アジアエキスポの開会式にボランティアとして参加しました。参加前は自分の中国語に自信がなく、人との会話に消極的になっていました。しかし、この活動と一緒に参加した他の留学生が積極的に話しかけてくれたこと、イベントで多くの人と写真を撮って仲良くなったことで、自分から積極的に話しかける勇気が湧くことに。その後は中国語を話す機会を増やすためにランゲージパートナーを作ったり、積極的に日中交流会に参加したりと、社交的に行動しました。今後は中国語運用能力をさらに高め、通訳・翻訳やツアーガイドなどの仕事に携わりたいと考えています。

留学中の思い出



クラスの仲間たちとの1枚。韓国人、パキスタン人、タイ人など、さまざまな国からの留学生と共に学びました。



アジアエキスポの開会式にボランティアとして参加。浴衣を着て参加したことで、たくさんの人と写真を撮り仲良くなりました。

2020年度 留学

自分から動き出すことで周りからの
協力が得られることを実感しました。

アメリカ / オレゴン大学

どのような環境でも自分で目標を定め、
考えて行動することで、多くの出会いと
成長の機会を得ることができました。



3年次生
門野 春佳さん
大阪 / 初芝立命館高校出身

自然が豊かな環境に憧れて、オレゴン大学に留学しました。最初の6か月間は大学付属の外国語学校、その後の2か月間は学部の授業を受けましたが、新型コロナウイルスの影響を受け、全てZoomでの受講となりました。外国語学校には世界各国から学生が集まっており、家族構成や結婚観など、お互いの文化背景の違いを実感。この6か月間で、学術的な英語の書き方や、長文全体の意味を速く理解する力が身に付きました。また、大学では興味をもっていた言語学の授業を履修。日本語に興味をもつアメリカ人学生もいたため、お互いの母国を教え合いました。当初思っていた留学生活とは違う形になりましたが、自分で目標や楽しみを見つけて過ごした9か月間で得たものは多いと感じます。自ら考えて行動する中で、文化的背景が異なる人々とも互いの意見を尊重し、視野を広げることができました。

留学中の思い出



Zoomを通して仲良くなった仲間と食事に出かけた際の1枚。



かぼちゃをくりぬいてランタンを作ったり、全員で仮装したりと、本格的にハロウィンを楽しみました。

互いの文化について語り合い
現地の学生との距離が縮まりました。

キルギス共和国 / 中央アジア・アメリカ大学

言語も、振る舞いも、現地のスタイルに変え、
異文化の中にどっぷりと浸かったことで
日本との違いや共通点をより理解できました。



3年次生
馬場 怜那さん
大阪 / 桃山学院高校出身

キルギス共和国では、異文化コミュニケーションをまさに身をもって学ぶような体験の連続でした。大学の授業は英語で行われていましたが、大学から一歩外に出るとロシア語しか通用しません。買い物では現地の方の言い回しや振る舞いを真似するなど、生活していくために言語も行動も全て現地のスタイルに変わらなければならませんでした。大変ではありましたが、キルギス人の学生が積極的に私たちと交流する機会を設け、現地の習慣や風習を教えてくれたおかげで、楽しみながらキルギス文化を吸収していくことができました。また、現地の学生が日本文化について学ぶ授業に招待され、それぞれの文化について語り合ったことは、互いの距離を縮める貴重な機会になりました。さらに、現地の学生に日本語を教える機会もあり、そこで言語を教える楽しさを実感。留学先で「日本語教員になりたい」という夢が芽ばえました。

留学中の思い出



アウトドアクラブの活動に参加。雪山をハイキングし、凍りついた滝を見に行くなど、キルギスの自然を堪能しました。



キルギス人学生が開いてくれたウエルカムパーティー。ご家族が経営するレストランでキルギス流のおもてなしを体感しました。